

平成29年度 第3回家庭教育学級 開催報告書

早春の候、PTA会員の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
2月16日に、『第3回家庭教育学級』を開催いたしました。講師に、木下亜紀先生をお招きし、「こどものことばと発達について」～言語発達にかかわる言語聴覚士の観点から～というテーマのもと、講座を行いました。そもそも「ことば」とは何でしょうか。
言語発達に関わる専門家としての先生のお話を伺い、たいへん充実した内容となりました。
以下、講座内容を報告申し上げますのでご参加いただけなかった方々もぜひお役立ていただければ幸いです。

「こどものことばと発達について」

講師 木下 亜紀(きのした あき)先生

認定言語聴覚士(言語発達障害領域)

言語聴覚士として言語発達領域(ことばに遅れが生じる、病気や障害をお持ちのお子さん)を中心とした療養と教育に携わる。現在は、都立特別支援学校の外部専門家、訪問リハビリテーション、児童発達支援センターに勤務しながら、筑波大学大学院に通学。



言語聴覚士とは

話す・聞く・食べる のスペシャリスト

ことばによるコミュニケーションや嚥下に問題がある方々の社会復帰をお手伝いし、自分らしい生活ができるように支援する

日本言語聴覚士協会 <https://www.jaslht.or.jp/>



「言語」「視覚」「嚥下」などの障害を持つ方をサポートするのが、言語聴覚士の仕事です

講演内容

言語とは何か

人々が、ある情報を伝える・受け入れるために用いる記号体系(対人関係の機能、効果的学習の機能)の事をいう。→

各国の言語 | 手話 | 文字

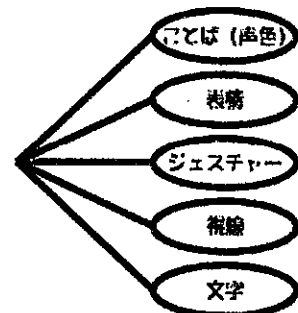
ことばとは何か

コミュニケーションを行う為の口話的(耳から聞こえるもの)手段である。つまり、ことばのやりとりができなくても、言語がわかれば意思疎通できる

コミュニケーションとは何か

「ことばや言語などを用いて情報のやりとりを行う過程」である。私たちは、他人と意思疎通する時、どのような手段を用いますか?

…この5つの項目を駆使して、人とコミュニケーションを図っていく。

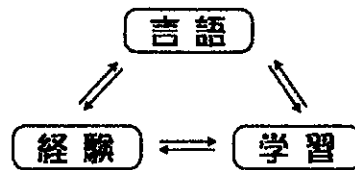


学童期の語彙能力について

- 学童期も幼児期に劣らず多くの語彙能力を日々獲得している。
- 読解（書かれた文章を正確に読み、理解する能力の獲得）と語彙能力は関係が深い。
→語彙能力の高い方が、読解力も高くなる。
- 子どもの語彙理解は時間をかけて深く、また広くなっていく
- 一定の語彙を獲得すると、その要素の知識に基づいて、それを組み合わせた新しい語の意味を推測によって知る事ができるようになる。
- 一日あたりの読書時間は少なくても、それが積み重なる事で子どもたちは多くの言葉に接し、文脈から新たな言葉の意味を身に付けていく。

言語発達における相互作用

見たり、聞いたりするだけでなく、自分の体を使って体験し、学習することが言語を支える。



言語聴覚士の治療の対象となる疾患

- | | | |
|------------|---------------------|-----------------|
| ●知的障害 | ●自閉症スペクトラム障害を含む発達障害 | ●学習障害・発達性読み書き障害 |
| ●特異的言語発達障害 | ●聴覚障害 | ●構音障害・吃音 |
| | | ●脳性麻痺、重症心身障害 |

自閉症スペクトラム障害とは？

発達早期から社会性、コミュニケーション、イマジネーションにおいて、なんらかの質的障害を示す症状を指す概念的な用語であり、临床上用いられることの多い診断のための用語である。

～自閉症スペクトラム障害に言語聴覚士が行うこと～

- 安心できる、見通しの持てる環境の形成
- 意思疎通できる環境の形成：要求・拒否を伝える、援助を求める、困難を表明する、心理的な状態を伝えることへの支援
- 楽しいことのある環境の形成
- 自信の持てる環境の形成

発達性読み書き障害とは？

正確に書いたり読んだり（正確性）、スムーズに読んだり書いたり（流暢性）する事が難しい
(文字形態の稚劣さや、枠からはみ出し、鏡文字だけの症状は含まれない)

★発達性読み書き障害の関連書籍

「ファンタジウム」杉本 亜未

「うちの子は字が書けない」千葉 リョウコ・宇野 彰

「読めなくても、書けなくても、勉強したい」井上 智・賞子

学習障害とは？

「話す、聞く、読む、書く、計算する、推論する」能力の習得と使用の著しい困難がある

～学習障害・発達性読み書き障害に言語聴覚士が行うこと～

- 認知特性の把握：知能検査、読み書き検査の施行
- 認知特性にあった学習方略の検討、訓練
- 環境調整：家族、学校、療育期間などの関係諸機関との連携

吃音とは？

幼児期に5%の程度の発症率で発吃する。その70~80%は、就学までに自然治癒すると言われている。症状が継続した場合、心理的に負担が大きくなり症状が悪化する可能性があるため、早期から適切な対応が必要である。

～吃音に言語聴覚士が行うこと～

●環境調整

吃音に関する正しい知識の提供、流暢性を促進しやすい条件や非流暢性を生じやすい条件を理解して適切な環境を整えるように促す。周囲のからかいなどの問題が生じないように園や学校への協力依頼も行う。

●リカムプログラムなどのプログラムの提供

毎日15分、家族が家庭で発話への原則に従ったフィードバックを行う方法（ワークショップを受けた言語聴覚士の助言と指導が必要。）などの実施。

以上、簡単ではありますが、講演会の内容をご紹介いたしました。

1時間半くらいの講演会でしたが、大変専門的な見地から、しかし参加者たちに分かりやすく、時には実践形式もまじえながらご説明くださいました。

最後の質問コーナーでは、各ご家庭でのお子さんの発音や言語表記などに関する具体的な悩みが次々に寄せられましたが、すぐに実践できそうな対処方法や練習方法を即座にご回答くださいました。

また、講演の中で、以下の動画をご紹介いただきました。
ご家庭でもご覧になれるので、是非参考にしてください。

★自閉症スペクトラム障害に関する動画

「自閉症」を知ってください 政府インターネットテレビ
<https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg3288.html?nt=1>

★感覚過敏に関する動画

「Can you make it to the end?」 制作：The National Autistic Society
<https://www.bing.com/videos/search?q=the+national+autistic+society&&view=detail&mid=3526E672A424378EA2ED3526E672A424378EA2ED&FORM=VRDGAR>

★吃音に関する動画

NHKおはよう日本 2016年2月9日放送
悩んだ経験を生かして支援 「きつ音」の専門医 YouTube
<https://www.youtube.com/watch?v=iehliJn28HI>

☆参加者たちの声（アンケートからの抜粋）

○沢山学ばせてもらった。読み書き障害など知らない事があったので、先生方には全員に知っていただきたいと思った（2年生 男子）

○3人兄弟の真ん中は、元々あまりしゃべるタイプではないので、つい代わりに話してしまうのですが、ゆっくり話を聞いてあげたり、話す機会を与えてあげようと思った。また、口の訓練で話せるようになる事を初めて知った（2年生 女子）

○身近な言葉や学習に障害がある方がいらしたら、これまで以上に寄り添っていきたいと思った（3年生 男子）

○認知処理様式の違いが人それぞれだという事が分かり、子どもに合わせる事が必要だと思った（1年生 男子）

- 子どもの認知処理様式が同時処理型と分かり、それに応じた対応していこうと思った。言語と言葉の違いなど改めて気が付いた(6年生 女子)
- 行動領域にも、分析型、全体型があると知り、子供へのアプローチ方法も日常生活で子供に合った声かけをしたいと思った(1年生 男子)
- 「走らない」って言わない。「歩きなさい」と言った事がないので、目からウロコでした。また、話を遮ってしまう事がとても良くない事と心に留めて、娘の話をちゃんと聞きたいと思った(2年生 女子)
- 下の子供が少しどもるので、今日の言葉についての注意事項を実践します(3年生 女子)
- ディスレクシアや吃音の子や人に対して理解が深まり、気を配って対応できるのでないかと思った(2年生 女子)
- 音読の必要性を改めて感じた。学習障害についてよく知る事ができた(4年生 女子)
- 認知処理様式ごとに対応を変えたほうが良いという点は、とても参考になった(1年生 男子)
- 本の読みせをもう少しやってあげたいと思った。認知処理様式のチェックが上の子と下の子で違うので、育て方も違うのだと思った(2年生 男子)
- 幼稚園の頃に心配だった事が先生のお話を聞いて解消した(5年生 女子)
- 子供との会話の仕方、読み聞かせの大切さをこれからの生活に活かしていきたいとおもった(3年生 男子)
- 子供にゲームをやめさせる時の言葉かけを参考にしたいとおもった(3年生・5年生 男子・女子)
- 小さな子供だけでなく、大人も日々発達していると思えた。また、絵本を読み放しにせず、会話をしていこうと思った。(1年生 女子、3年生男子)
- 気になっていた事が質問出来てよかった。認知処理特性が人にはあることが分かった(1年生 女子)
- 子供の言いたい事を先読みして話す事が多々あるので、もう少し気持ちにゆとりを持って話を聞きたいと思った(3年生 男子、6年生 女子)
- 子供の学習の特徴をもう一度見てみようと思った(3年生 男子)
- 子供に分かり易い言葉かけをするように心がけたい。音読の宿題をもう少し丁寧に聞こうと思った(1年生 女子)
- 言語発達のことが興味深かった(3年生 男子)
- 子供への声掛けの仕方が参考になった。分かり易く伝え、褒める事も大切にしようと思った。子供の特徴を理解し、勉強をサポートしたいと思った(4年生 男子)
- 言語聴覚士に、子供をみてもらう機会があるといいなと思った(3年生 男子、6年生 女子)
- 「ゆっくり話す」、「少し間をおいて話す」などを、全く出来てないので頑張ります(2年生 女子)
- 言葉かけの重要性を改めて知った(5年生 女子)
- 本・絵本の読み聞かせがいかに大切かと実感し、寝る前に必ず読んであげようかと思った(1年生 男子)
- 会話中、聞く前に話をしてしまうので、話をさせる事が大事だと思った。知識がない事で苦しめてしまう事があるので、いろいろ知りたいと思った(1・5年生 男子)
- 読解力には本の読み聞かせが効果的との事で、積極的に読みせをしていきたいと思った(2年生 女子)
- 語彙力が少ないので、今後は子供が選んだ本で読み聞かせをしたいと思った。また、先読みせず子供の会話に沿って内容を広げて会話を楽しみたいと思った(2年生 女子)
- わかり易い言葉かけのお話を聞いて、家でも気をつけたいと思った(5年生 女子)
- 語彙を増やすために、絵本を読む。6年生位まで読むと良いと知った(1年生 女子)
- 子供の滑舌(発音)の治し方のアドバイスをしていただき良かった(1年生 男子)
- 言語の2面性のところが毎日の生活に活かそうと参考になった(4年生 男子)
- 子供が読みたい本を選ぶ事。吃音の理解ができた(1年生 女子)

2018年2月16日(金)家庭教育学級委員会
『こどものことばと発達について』
～言語発達にかかわる言語聴覚士の観点から～

■当日参加者実績

○出席人数 大人38名/子供2名(申込人数:大人40名/子供2名)

※申込数に対する出席率:大人95% 子供100%

○学年別出席人数

1年生 11名、2年生 8名、3年生 7名

4年生 5名、5年生 4名、6年生 3名

■アンケート提出枚数 35枚(アンケート提出率 92.1%)

■アンケート集計結果

1.講演会の内容はいかがでしたか。

とても良かった・・・31名

良かった・・・4名

普通・・・0名

良くなかった・・・0名

2.講演を聴かれて、今後生活に役立ちそうなことがありましたら、お書きください

※()は子供の学年と、性別

○子供との会話の仕方、読み聞かせの大切さをこれからの生活に活かしていきたいとおもった(3年生 男子)

○子供にゲームをやめさせる時の言葉かけを参考にしたいとおもった(3年生・5年生 男子・女子)

○発達は小さな子供だけでなく、大人も日々発達していると思えた。また、絵本を読み放しにせず、会話をしていこうと思った。(1年生 女子、3年生男子)

○「走らない」って言わない。「歩きなさい」と言った事がないので、目からウロコでした。また、話を遮ってしまう事がとても良くない事と心に留めて、娘の話をちゃんと聞きたいと思った(2年生 女子)

○気になっていた事が質問出来てよかった。認知処理特性が人にはあること(1年生 女子)

○子供の言いたい事を先読みして話す事が多々あるので、もう少し気持ちにゆとりを持って話を聞きたいと思った(3年生・6年生 男子・女子)

○沢山学ばせてもらった。読み書き障害など知らない事があったので、先生方には全員に知っていただきたいと思った(2年生 男子)

○子供の学習の特徴をもう一度見てみようと思った(3年生 男子)

○子供に分かり易い言葉かけをするように心がけたい。音読の宿題をもう少し丁寧に聞こ

うと思った (1年生 女子)

○下の子供が少しもるので、今日の言葉についての注意事項を実践します (3年生 女子)

○言語発達のことが興味深かった (3年生 男子)

○本の読みせをもう少しやってあげたいと思った。認知処理様式のチェックが上の子と下の子で違うので、育て方も違うのだと思った (2年生 男子)

○3人兄弟の真ん中は、元々あまりしゃべるタイプではないので、つい代わりに話してしまうのですが、ゆっくり話を聞いてあげたり、話す機会を与えてあげようと思った。また、口の訓練で話せるようになる事を初めて知った (2年生 女子)

○子供への声掛けの仕方が参考になった。分かり易く伝え、褒める事も大切にしようと思った。子供の特徴を理解し、勉強をサポートしたいと思った (4年生 男子)

○言語聴覚士に、子供をみてもらう機会があるといいなと思った (3年生・6年生 男子・女子)

○認知処理様式の違いが人それぞれだという事が分かり、子供に合わせる事が必要だと思った (1年生 男子)

○音読の必要性を改めて感じた。学習障害についてよく知る事ができた (4年生 女子)

○「ゆっくり話す」、「少し間をおいて話す」などを、全く出来てないので頑張ります (2年生 女子)

○子供の認知処理様式が同時処理型と分かり、それに応じた対応していこうと思った。言語と言葉の違いなど改めて気が付いた。貴重なお話をどうもありがとうございました (6年生 女子)

○言葉がけの重要性を改めて知った (5年生 女子)

○行動領域にも、分析型、全体型があると知り、子供へのアプローチ方法も日常生活で子供に合った声かけをしたいと思った (1年生 男子)

○本・絵本の読み聞かせがいかに大切かと実感し、寝る前に必ず読んであげようかと思った (1年生 男子)

○会話中、聞く前に話をしてしまうので、話をさせる事が大事だと思った。知識がない事で苦しめてしまう事があるので、いろいろ知りたいと思った (1・5年生 男子)

○ディスレクシアや吃音の子や人に対して理解が深まり、気を配って対応できるのでないかと思った (2年生 女子)

○読解力には本の読み聞かせが効果的との事で、積極的に読みせをしていきたいと思った (2年生 女子)

○身近な言葉や学習に障害がある方がいらしたら、これまで以上に寄り添っていききたいと思った (3年生 男子)

○語い力が少ないので、今後は子供が選んだ本で読み聞かせをしたいと思った。また、先読みせず子供の会話に沿って内容を広げて会話を楽しみたいと思った (2年生 女子)

○わかり易い言葉かけのお話を聞いて、家でも気をつけたいと思った (5年生 女子)

- 語いを増やすために、絵本を読む。6年生位まで読むと良い (1年生 女子)
- 認知処理様式ごとに対応を変えたほうが良いという点は、とても参考になった (1年生 男子)
- 子供のかっぜつ (発音) の治し方のアドバイスをしていただき良かった (1年生 男子)
- 幼稚園の頃に心配だった事が先生のお話を聞いて解消した。ありがとうございました (5年生 女子)
- 言語の2面性のところが毎日の生活に活かそうで参考になった (4年生 男子)
- 子供が読みたい本を選ぶ事。吃音の理解ができた (1年生 女子)

3.今後、家庭教育委員会で取り上げてほしいテーマがありましたら、お書きください。

- 子供の心と体の成長と変化
- 体を動かすことや健康のこと
- 子供の発達に関する内容
- 「カラー」による効果の勉強法
- 子供の運動機能
- 書く事、文章力の育て方
- ゲームとの関わり方

以上